

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 1 区分
 【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2003-528570 (P2003-528570A)
 【公表日】平成 15 年 9 月 30 日 (2003.9.30)
 【出願番号】特願 2000-609542 (P2000-609542)
 【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09
 A 6 1 K 39/145
 A 6 1 K 48/00
 A 6 1 P 31/16
 C 1 2 N 5/10
 C 1 2 N 7/00

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A
 A 6 1 K 39/145
 A 6 1 K 48/00
 A 6 1 P 31/16
 C 1 2 N 7/00
 C 1 2 N 5/00 B

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 4 月 20 日 (2005.4.20)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 R N A ポリメラーゼ I (p o l I) プロモーター、p o l I ターミナーター配列、ならびに P A、P B 1、P B 2、N P、N A、M、M 1、M 2 および N S 2 からなる群より選ばれるインフルエンザウイルスの核酸セグメントを含んでなる発現プラスミド。

【請求項 2】 オルトミクソウイルスを生成するのに十分な複数のプラスミドを含んでなる、クローン化されたウイルス c D N A からオルトミクソウイルスを発生するためのプラスミドをベースとするシステムであって、

(a) ウイルス性ゲノムセグメントに相当する c D N A、および

(b) ウイルス性ポリペプチドをコードする c D N A

を含んでなることを特徴とするプラスミドをベースとするシステム。

【請求項 3】 ウイルス性ゲノムセグメントが P A、P B 1、P B 2、N P、H A、N A、M、および N S 2 からなる群より選ばれる請求項 2 記載のプラスミドをベースとするシステム。

【請求項 4】 ウイルス性ポリペプチドが P A、P B 1、P B 2、N P、H A、N A、M、M 1、M 2 および N S 2 からなる群より選ばれる請求項 2 記載のプラスミドをベースとするシステム。

【請求項 5】 請求項 2 記載のプラスミドをベースとするシステムを含んでなる宿主細胞。

【請求項 6】 オルトミクソウイルスのウイルス性ゲノムセグメントに相当する c D N A を担持するプラスミドおよびオルトミクソウイルスのウイルス性ポリペプチドをコード

する c D N A を担持するプラスミドの複数を含んでなり、かつ、ヘルパーウイルスの非存在下で感染性オルトミクソウイルスを生産できることを特徴とする請求項 5 記載の宿主細胞。

【請求項 7】 ウイルス性ゲノムセグメントが P A、P B 1、P B 2、N P、H A、N A、M、および N S 2 からなる群より選ばれる請求項 6 記載の宿主細胞。

【請求項 8】 ウイルス性ポリペプチドが P A、P B 1、P B 2、N P、H A、N A、M、M 1、M 2 および N S 2 からなる群より選ばれる請求項 6 記載の宿主細胞。

【請求項 9】 請求項 5 記載の宿主細胞をウイルス性タンパク質および v R N A または c D N A の生産を可能にする条件下で培養することを特徴とするオルトミクソウイルスビリオンの生産方法。

【請求項 10】 ウイルス性ゲノムセグメントに相当する c D N A を担持するプラスミドおよびウイルス性ポリペプチドをコードする c D N A を担持するプラスミドの複数を有する宿主細胞からビリオンを精製する工程を含んでなり、かつ、該プラスミドが宿主細胞に導入されたときに該ビリオンを産生する十分な能力があることを特徴とするオルトミクソウイルスに特異的な免疫原性組成物の調製方法。

【請求項 11】 オルトミクソウイルスビリオンを含んでなり、かつ、該ビリオンのウイルス性内部タンパク質が培養により成長するのに十分適応したウイルス株もしくは弱毒化株または両者に由来し、そして該ビリオンのウイルス性抗原タンパク質が病原性ウイルス株に由来することを特徴とする免疫原性組成物。

【請求項 12】 ヘルパーウイルスの非存在下で生産されるオルトミクソウイルスビリオンを含むことを特徴とする免疫原性組成物。

【請求項 13】 ヘルパーウイルスまたはインビトロのリボ核タンパク質複合体の非存在下で生産されるオルトミクソウイルスビリオンを含むことを特徴とする免疫原性組成物。

【請求項 14】 請求項 11 記載の免疫原性組成物を被験体に投与することを特徴とするオルトミクソウイルス感染に対する被験体の免疫感作方法。

【請求項 15】 (a) リボ核タンパク質複合体を形成でき、かつ、ヘルパーウイルスの非存在下でウイルス性粒子を作製できるように、293T細胞においてゲノムもしくはアンチゲノムの v R N A セグメント、および核タンパク質、および R N A 依存性ポリメラーゼの発現を指示する発現ベクターを該細胞に導入する工程、ならびに (b) ウイルス粒子がパッケージングされ、そしてレスキュー - される該細胞を培養する工程、を含むことを特徴とする組換えマイナス鎖 R N A ウイルスのレスキュー方法。

【請求項 16】 組換えマイナス鎖 R N A ウイルスが分節型ウイルスである請求項 15 記載の方法。

【請求項 17】 該マイナス鎖 R N A ウイルスがインフルエンザウイルスである請求項 16 記載の方法。

【請求項 18】 発現ベクターが操作可能に p o l 1 プロモーターに連結されている請求項 15 記載の方法。

【請求項 19】 異種核酸配列を発現するキメラ組換えマイナス鎖 R N A ウイルスのレスキュー方法であって、

(a) リボ核タンパク質複合体を形成でき、かつ、ヘルパーウイルスの非存在下でウイルス粒子を作製できるように、293T細胞においてゲノムもしくはアンチゲノムの v R N A セグメント、および核タンパク質、および R N A 依存性ポリメラーゼの発現を指示する発現ベクターを該細胞に導入する工程、ならびに

(b) ウイルス粒子がパッケージングされ、そしてレスキュー - される該細胞を培養する工程、を含むことを特徴とする方法。

【請求項 20】 異種核酸配列がマイナス鎖 R N A ウイルスゲノムの D N A 相補体に挿入され、こうして該異種核酸配列の側部にウイルスのポリメラーゼ結合部位およびポリアダニル化部位が配置される、請求項 19 記載の方法。

【請求項 21】 マイナス鎖 R N A ウイルスのウイルス性ポリメラーゼ結合部位をコー

ドするオリゴヌクレオチドが、該異種核酸配列に連結される、請求項 19 記載の方法。

【請求項 22】 キメラ組換えマイナス鎖 RNA ウイルスが分節型ウイルスである、請求項 19 記載の方法。

【請求項 23】 分節型ウイルスがインフルエンザウイルスである、請求項 22 記載の方法。

【請求項 24】 異種核酸配列が該マイナス鎖 RNA ウイルスの異なる株由来のウイルスの遺伝子をコードする、請求項 19 記載の方法。

【請求項 25】 異種核酸配列がアンチセンス核酸である、請求項 19 記載の方法。

【請求項 26】 請求項 19 の方法により生産されるキメラ組換えマイナス鎖 RNA ウイルス。

【請求項 27】 クローン化されたウイルスの cDNA から完全に感染性ウイルスを生じさせるためのプラスミドをベースとするシステムであって、該プラスミドが

a) 該ウイルスのウイルス性ゲノムに相当する cDNA、および

b) 該ウイルスのウイルス性ポリペプチドをコードする cDNA
を含むことを特徴とするシステム。